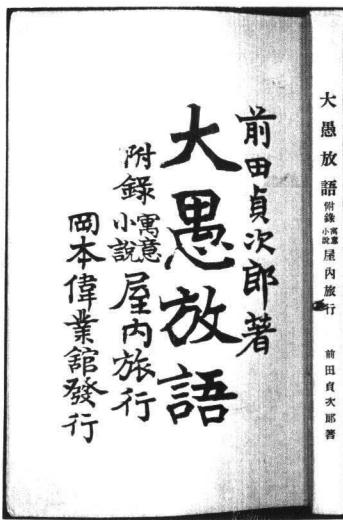


前田貞次郎 小説家、新聞記者、部落解放運動家。明治二年十月十七日京都生れ、大正十一年十一月十六日没（一八六九—一九一三）。舊姓太田、本名貞次郎。別號「遊生」、玄天洞、大慈庵主、馬頭居士、素鐵公、花のや瓢、花の家ひちば、花の家主人、花の舍ひづる、花道家瓢、銅面郎。中江兆民の佛學家として知られる。兆民主筆『東洋新聞』記者等に連絡し、明治十九年『藝滿日本新聞』主筆となる、部落問題關係の論説多數執筆。四十年廣島市福岡町、教敎會廳門、つた縣共六鶴舎幹事等を務め、其業に參與。

小説『近世漢華之樂譜』（明治二十七年、上巻・明治三十年十一月刊新註）、『子供は眞善眞世一人娘』（花道家瓢名、明治三十一年一月）『十九』（大興集館）がある他、『続』（素鐵公名、明治三十一年二月十八日大阪・敬文堂、『續文館發行』）、『寫世小説家の死』（明治三十一年四月十九日大阪・圖本畫房）、「大興之旅語」（附錄小説）、『屋内旅行』（明治三十四年十一月）『十九』（大阪・圖本畫業館）、「體畫圖人」（大正五年六月）『十八』（洛陽堂）等多數の其書が現存する。



大愚放語
附錄 寓意屋内旅行
圖本偉業館發行